施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	5　子ども・教育
政策	3　地域社会や世界で力を発揮できる人材を育成します
施策	1　自己有用感を持ち、社会で力を発揮できる若者の育成
施策の目的	地域社会や世界で力を発揮できる人材を育成するために、子ども・若者自身が自己有用感を持ち、社会で力を発揮していくことができるよう育成に取り組みます。 そのため、家庭、学校、地域、青少年育成団体などと連携し、子ども・若者の成長に応じた豊かな体験・活動の場や学習の機会を提供し、子ども・若者の成長を支援していきます。

評価責任者	所属	子ども未来局　青少年育成課
	氏名	課長　阿部　薫夫

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**A：施策の目的が達成されている。**	理由	成果指標である「住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合」「自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合」については。それぞれ目標を達成できた。また、指標以外でも、「青少年団体の活動参加者数」「各地域青少年健全育成大会の開催」について、ほぼ例年どおり（コロナの影響除く。）の成果を上げることができた。主要事業についても、青少年の自己有用感向上に必要な「地域行事への参加意欲」「地域への愛着」を培うための取組が着実に実施された。 以上のことから、施策の目的を概ね達成できたものと判断し、総合評価は「A」とした。
	令和２年度	－	理由	新型コロナウィルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査が実施されなかったことに伴い、設定している指標「住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合（行事参加の有無）」及び「自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合（自己肯定感）」について実績値を測定することが出来なかった。 また、指標以外でも新型コロナウィルス感染症の影響により多くの活動が縮小したため評価することができない。
	令和３年度	－	理由	－
	令和４年度	－	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	評価	目標値の算出根拠
成果指標	住んでいる地域の行事に参加している児童・生徒の割合（行事参加の有無）	小61.1% 中58.5% (H30)	1	小64.0% 中62.1%	小66.6% 中64.3%	小104.0% 中103.5%	a	過去５年（H26～H30）における最高値（小H28/中H27)を毎年度の目標値に設定した。 【実績根拠】 全国学力・学習状況調査（毎年度実施）の結果 「今住んでる地域の行事に参加している」という質問にて、 「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合
			2	小64.0% 中62.1%	小-（未実施） 中-（未実施）	小-（未実施） 中-（未実施）	－	
			3	小64.0% 中62.1%	－	－	－	
			4	小64.0% 中62.1%	－	－	－	
	自分にはよいところがあると思う児童・生徒の割合（自己肯定感）	小87.1% 中80.2% (H30)	1	小87.1% 中80.2%	小84.2% 中75.8%	小96.6% 中94.5%	a	過去５年（H26～H30）における最高値（小中H30）を毎年度の目標値に設定した。 【実績根拠】 全国学力・学習状況調査（毎年度実施）の結果 「自分にはよいところがあると思う」という質問にて、 「当てはまる」「やや当てはまる」と回答した割合
			2	小87.1% 中80.2%	小-（未実施） 中-（未実施）	小-（未実施） 中-（未実施）	－	
			3	小87.1% 中80.2%	－	－	－	
			4	小87.1% 中80.2%	－	－	－	
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の成果	・青少年団体（子ども会、ボーイスカウト、ガールスカウト、静岡市青年団連絡協議会、少年教室）の活動参加者数　5,612人 ・各地域青少年健全育成大会の開催地区数　48地区							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工 正規	人工 非常勤	人工 臨時	達成状況
青少年・乳児ふれあい促進事業	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、当該事業については実施を見送った。 ※予算決算の記載は全体事業費であり本事業費はそのうちの一部	3	1	226,842	0	226,816	1.0	0.0	0.0	—
			2	227,024	0	226,856	1.0		0.0	
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
静岡市成人式開催事業	静岡市成人式実行委員会との共催による「静岡市成人式」の開催 ・実行委員数：17名 ・事前申込者数：4,308人 ・オンライン成人式Youtube閲覧回数：6,019回	1	1	4,733	0	4,642	0.8	0.0	0.5	○
			2	18,982	0	7,992	0.8		0.5	
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
わかもののまち推進事業	若者を対象に、地域への愛着や自己有用感を高めるとともにシチズンシップを育む機会を提供するため、高校生まちづくりスクールを開催 ・講座実施回数：６回 ・自分が社会のために何かできるという実感を得られた参加者96%	2	1	730	0	715	0.4	0.0	0.0	○
			2	693	0	691	0.4		0.0	
			3	—	—	—	—	—		
			4	—	—	—	—	—		
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	①（成人式）一層の参加率向上（会場への入場）を目指す。 ②（わかもののまち）一層の参加者増を目指す。	①新成人にとって魅力あるイベントとするよう企画検討を行う。R2年度は会場変更が予定されているため、より参加（入場）しやすい会場検討を行う。 ②高校生にとって参加しやすい日程調整を行う。学校訪問による周知・PRの拡大に努める。
令和２年度	（共通）コロナ禍及びコロナ後の子ども・若者の成長に応じた豊かな体験・活動の場や学習の機会提供の検討 （乳児ふれあい）新型コロナウイルス感染症のような感染力の強い感染症が発生した場合、中学生と赤ちゃんが触れ合うような事業については、実施が困難である。 （成人式）コロナ禍、コロナ後における成人式の適切な開催方法の決定。 （わかもののまち）参加者の継続した活動の維持	（共通）感染症対策の徹底やオンライン等を活用した効果的な手法の検討 （乳児ふれあい）実施に向けた手法の検討 （成人式）オンライン配信を併用するなど参加者の安全確保等を考慮した開催方法の検討 （わかもののまち）事業終了後の活動継続に向けたサポートの強化。
令和３年度	－	－
令和４年度	－	－

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	5　子ども・教育
政策	3　地域社会や世界で力を発揮できる人材を育成します
施策	2　グローバルに活躍する人材の育成
施策の目的	今後、2020年に東京オリンピック・パラリンピックの開催を控え、グローバル化が一層進展していくことが想定されます。静岡市では、グローバル化に対応した教育を実施し、自信をもって異なる文化の人とのコミュニケーションをとることができ、地元への愛情をもちながら将来的には国際的に活躍できる人材を育成します。

評価責任者	所属	教育局　学校教育課
	氏名	課長　柴田　由香里

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。**	理由	成果指標における実績値が前年度に比べ若干向上したものの、目標値を大幅に下回る結果となった。しかし、教職員の長期海外派遣による指導者の英語力や資質の向上を図るとともに、学校へのALTの派遣やイングリッシュキャンプなどの取組により、児童生徒の英語力や異文化理解の向上を図ったことを踏まえ、総合的に判断したため。
	令和２年度	－	理由	新型コロナウイルス感染症対応に伴う学校の負担軽減の観点から、文部科学省が行う令和２年度の「英語教育実施状況調査」が中止となり、成果指標における実績値の基礎データが得られないため
	令和３年度	－	理由	－
	令和４年度	－	理由	－

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	中学校卒業までに、英語能力に関する外部試験を受験したことがある生徒の割合	24.0%（H30）	1	44.8%以上	25.0%	55.8%	d	「グローカル人材」の育成という大きな目標の実現にあたっては、英語を使って積極的にコミュニケーションをとろうとする態度や国際的な視野を持ちつつ、身近なところからチャレンジする意欲が子どもたちに求められるため、目標値として、全国平均以上を設定する。
			2	全国平均以上	－	－	－	
			3	全国平均以上	－	－	－	
			4	全国平均以上	－	－	－	
			1					
			2					
			3					
			4					
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の成果	・中学校で、生徒がＡＬＴと授業以外の日常場面で気楽に英語を話す場として、イングリッシュデイを実施し、学校へのアンケート調査を行ったところ、８割以上の学校が、「英語に触れる機会を充実させることができた」・「英語でのコミュニケーションを楽しむ姿が見られた」と回答していることから、自信をもって英語でコミュニケーションができる人材の育成を図ることができた。 ・平成29年度に作成したしずおか学と関連した静岡市独自の英語教材を、令和２年度においても、各小学校で活用することにより、身近な題材を通して英語への親しみを深めることにつながっている。 ・各小学校で英語が堪能な地域人材（GET）を活用することによって、約９割の児童がGETを活用した授業において、英語のコミュニケーションを楽しみ、異文化への興味関心をもつことができている。（GET推進校における児童へのアンケート）							

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
英語を活用したコミュニケーション力向上プロジェクト（学校教育課）	①ALTの招致（35名を各中学校及び高等学校へ配置） ②担任教員とALTによる英語授業の実施 ③英語が堪能な地域人材（GET）の活用 ④英語に触れる機会の拡充（イングリッシュデイの実施）	1	1	49,741	0	46,464	2.0	1.0	1.0	○
			2	53,457	0	40,002	2.0		2.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
教職員研修事業（教職員海外派遣研修）（教育センター）	①英語教育の研究及び研究論文報告並びに教材作成 ②姉妹都市であるシェルビービル市に教員を派遣（令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により中止）	2	1	1,090	0	1,040	1.0	0.0	0.0	○
			2	0	0	0	1.0		0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
しずおか学の推進（郷土教育の推進）（学校教育課）	①社会科副読本・地図やしずおか学－BooKの改訂、配布 ②しずおか学副読本の改訂、配布	3	1	4,130	0	4,120	0.5	0.0	0.0	○
			2	3,709	0	2,632	0.5		0.0	
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	英語検定受験者数の増加及び授業以外での英語に接する機会の拡充が必要である。	保護者へ啓蒙や周知を行う。また、イングリッシュデイの実施により機会を拡充していく。
令和２年度	新型コロナウイルス感染症拡大による影響のため、新規ＡＬＴが入国できず欠員が生じている。	複数校配置などＡＬＴの配置計画を見直し、学校への影響を最小限にする。
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―

施策評価シート（令和元年度～４年度）

分野	５　子ども・教育
政策	３　地域社会や世界で力を発揮できる人材を育成します
施策	３　未来へ向けた教育環境の整備
施策の目的	人工知能・ロボット技術の発展により今は存在しない仕事が生まれるなど、予測できない社会の到来が言われています。 そのような社会を生き抜く子どもたちの確かな力（学力・資質・能力）を伸ばし、本市さらには我が国の未来を担う人材として育成するために、小中一貫教育、小・中学校における教育用ＩＣＴの活用、校務支援システムや高等教育の在り方の検討など、「未来に向けた教育環境の整備」を進めます。

評価責任者	所属	教育局　教育総務課
	氏名	課長　秋山　知

（１）総合評価

総合評価	令和元年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	両河内地区の小中学校統合について地元の合意形成が図られたことから、経営会議に付議し、令和４年度の施設一体型小中一貫校の開校が決定した。また、ＩＣＴを活用した学校間交流やＡＬＴとの遠隔授業等の実施により、中山間地の教育環境の充実が図られた。また、ＩＣＴ支援員による要請訪問を実施することにより、授業における教員のＩＣＴ活用が増えた。
	令和２年度	**Ａ：施策の目的が達成されている。**	理由	足久保小学校の移転について重要政策会議に付議し、美和中学校への令和４年度移転が決定した。また、蒲原地区についても、施設一体型小中一貫校化に向けて重要政策会議に付議し方向性を決定するなど、適正規模・適正配置の取組が着実に進んだ。静岡型ＩＣＴ教育の推進に向け、小・中学校の校内ネットワークの環境整備が完了するとともに、小学４年生から中学３年生までの児童・生徒を対象として、２in１のタブレット型の学習用端末を導入することができた。
	令和３年度	**－**	理由	
	令和４年度	**－**	理由	

※【評価基準】Ｓ：施策の目的が十分に達成されている。Ａ：施策の目的が達成されている。Ｂ：施策の目的があまり達成されていない。Ｃ：施策の目的が達成されていない。－：評価できない。
※総合評価は、原則、指標の達成状況（達成率）に基づき判断する。ただし、指標の分析結果や指標以外の成果等により、指標の達成状況（達成率）と異なる評価とする場合は、その理由を必ず記載すること。

（２）成果指標

	指標名	現状値	年度	目標値	実績値	達成率（%）	**評価**	目標値の算出根拠
成果指標	教員が大型提示装置等のＩＣＴを活用した授業を１クラス当たり１回／週以上行った学校の割合	43.1%(小) 51.2%(中)	1	小・中ともに70%	小 71.1% 中 57.2%	小 101.6% 中 81.7%	b	平成30年度調査時の全国平均が児童・生徒とも70%を上回っており、その数値を目標値の目安とした。
			2	小・中ともに70%	―	―	―	
			3	小・中ともに70%	―	―	―	
			4	小・中ともに70%	―	―	―	
			1					
			2					
			3					
			4					
			1					
			2					
			3					
			4					
指標以外の成果								

※【評価基準】ｓ：105%以上、ａ：95%以上105%未満、ｂ：85%以上95%未満、ｃ：70%以上85%未満、ｄ：70%未満

（３）施策を構成する主要事業

主要事業名	主な活動内容	優先順位	年度	現計予算額	前年度からの繰越額	決算額	人工			達成状況
							正規	非常勤	臨時	
ＩＣＴ教育の推進(学校教育課)	①静岡市立小・中学校の教育情報機器の維持・管理 ②静岡市立小・中学校のネットワーク環境の維持・管理 ③静岡市立小・中学校のホームページの維持・管理 ④静岡市立小・中学校情報通信ネットワーク環境の整備 ⑤児童・生徒用の学習用端末の整備	1	1	2,612,976	0	238,517	1.3	0.1	0.0	○
			2	1,895,971	1,706,250	2,872,795	1.3	0.1		
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
小・中学校校務支援システム管理運営事業(学校教育課)	①静岡市立小・中学校校務支援システムの維持・管理	2	1	179,476	0	179,475	1.3	0.1	0.0	○
			2	179,554	0	179,404	1.3	0.1		
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
小中一貫校整備事業(教育施設課)	①清水両河内地区の小中学校統合に向けた施設整備に係る関係機関との協議 ②清水両河内地区の小中学校統合に向けた施設整備に係る設計業務委託（施設一体型小中一貫校）	2	1	160,600	0	159,520	3.3	0.0	0.0	○
			2	40,000	0	31,460	3.3	―		
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
市立小・中学校適正規模・適正配置の推進(教育総務課)	①施設一体型小中一貫校に向け、両河内地区(R4開校予定)において準備委員会や地元説明会を継続実施し、蒲原地区(R2地元から要望書提出)でも準備委員会や地元説明会を実施 ②足久保小学校の美和中学校敷地へのR4移転に向け、地元説明会を実施	1	1	―	―	―	1.0	0.0	0.0	○
			2	―	―	―	1.0	0.0		
			3	―	―	―	―	―	―	
			4	―	―	―	―	―	―	
			1							
			2							
			3							
			4							

※主要事業の優先順位は、各施策の目的や指標を達成する上で、重要度、貢献度などの観点から高いものから順位とする。
※達成状況の凡例（◎：計画より進んでいる、○：計画どおり進んでいる、△：計画より遅れている、－：計画上実施時期が到来していない、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった）

（４）今後に向けた見直し等

年度	課題	見直しの方向性
令和元年度	ＧＩＧＡスクール構想の実現に向け、たくさんのＩＣＴ端末機器が配備される。校内ネットワーク環境の再整備等、各教室でＩＣＴを活用し、一層主体的に学ぶ姿を引き出せる環境整備が求められる。	学校現場で円滑に活用ができるよう、現場の意見を取り入れながら環境整備を行っていく。また、実践事例等について、公開授業や校務支援パソコン等を活用して各学校へ広く普及啓発していく。
令和２年度	小学１年から３年までの児童の学習用端末及び教師用端末の整備に加え、整備に伴う情報通信量の増加に対応すべく、各校におけるインターネット接続環境を、センター集約方式からローカルブレイクアウト方式へ転換を図っていく必要がある。	小学３年の児童の学習用端末及び教師用端末の整備を行っていく。また、大規模校を中心として、ローカルブレイクアウト方式への転換を図り、学校でのＩＣＴ教育の円滑な活用ができるようにしていく。
令和３年度	―	―
令和４年度	―	―